

# 漁況予報 いわし

## 第173号

2012年9～10月漁期  
(2012年9月14日発行)

※1 平年：過去5年平均  
※2 被鱗体長：口先から尾ビレの付け根までの長さ

### = 概況 =

#### 【マイワシ】

神奈川県下の主要定置網におけるマイワシ総漁獲量は、7月が0.4トン、8月(速報値)が17トンで、両月とも好漁であった前年(7月269トン、8月343トン)および平年※1(7月152トン、8月223トン)を大きく下回りました。

魚体は、8月には被鱗体長※2(以下同)15cm前後の小羽マイワシが主体でした。これは2012年生まれの0歳魚と推定されます。

佐島地区のまき網は、8月に小羽～中羽マイワシ(未測定)を主体に鮮魚としての水揚がありました。

今後はひきつづき0歳魚(小羽～中羽サイズ)が漁獲主体となると考えられますが、今春のマシラスの漁獲量(3～6月)は前年、平年を大きく下回っていることから(前年比0.2倍、平年比0.3倍)、本県周辺海域の0歳魚の資源水準は低いものと推定されます。

#### 【カタクチイワシ】

神奈川県下の主要定置網におけるカタクチイワシ総漁獲量は、7月が78トン、8月(速報値)が0.8トンで、両月とも不漁であった前年(7月211トン、8月8.6トン)および平年(7月275トン、8月115トン)を大きく下回りました。

魚体は、7月には9～12cmの小型成魚が主体でした。これは2011年生まれの1歳魚と推定されます。

佐島地区のまき網は、7月上旬までは小型成魚を餌イワシとして漁獲していましたが、その後は群が漁場から散逸し、8月下旬までまとまった漁がない状態が継続しました。

今後は、9cm未満の未成魚が漁獲の主体になると考えられます。

#### 【シラス】

6月まで不漁であった今年の相模湾のシラス漁ですが、7月に入り状況が一変し、湾内全域で一網当り50～100kgの好漁が継続しました。そのため7月のシラス推定漁獲量は、前年および平年を大きく上回りました(前年比2.7倍、平年比1.8倍)。つづく8月は、上旬には7月に引き続き好漁であったものの、中旬以降は漁模様が落ち込み、前年、平年を下回る漁獲量となりました(前年比0.7倍、平年比0.6倍)。漁獲物は、両月ともカタクチシラス(カタクチイワシ仔魚)が主体でした。

7月のシラスの好漁は近隣県(愛知～茨城)でも見られた現象であったことから、渥美外海以東の広範囲の海域で、カタクチシラスが例年になく多く発生したものと

考えられます。

一方、当所が実施した卵稚仔プランクトン調査による、7、8月の相模湾のカタクチイワシ卵の分布量は平均206粒/曳網であり、前年(319粒/曳網)および平年(264粒/曳網)を下回りました。

### = 予報 =

#### 【マイワシ】

今漁期は、2012年生まれの小羽マイワシ～中羽マイワシ(14～16cm)が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、春季のマシラスの漁獲状況から、前年を大きく下回る約160トンと予測されます。

#### 【カタクチイワシ】

今漁期は、2012年生まれの未成魚(9cm未満)が漁獲の主体となるでしょう。

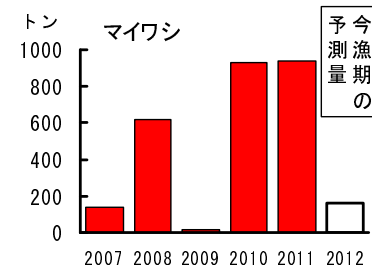
今漁期の漁獲量は、7～8月の主要定置網漁獲量から、前年同様に低水準の約20トンと予測されます。

#### 【シラス】

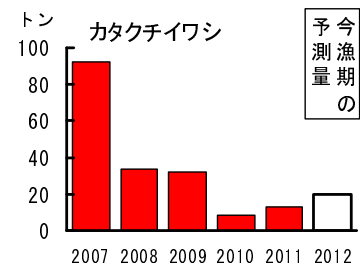
今漁期は、7月以降に発生したカタクチシラスが漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、7～8月の相模湾周辺のカタクチイワシ卵分布状況から、前年を大きく下回る55トンと予測されます。

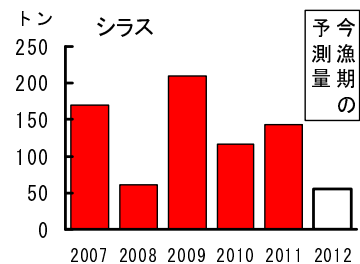
過去5年の9・10月漁期の漁獲量と今漁期の予測量



※グラフ縦軸：主要定置網+まき網



※グラフ縦軸：主要定置網+まき網



神奈川県水産技術センター資源環境部  
三浦市三崎町城ヶ島 (046)882-2313